

令和4年度 都城市立西岳中学校 学校評価書

目標	自己評価	現状分析	次年度への対策	学校関係者評価		
				評価	コメント	
最重点事項 (担当分掌部)	自分で考え、行動できる生徒の育成	A	概ねできているが、生徒の自己評価に比べ、保護者の評価は低い傾向にある。	行事等に限らず、日頃から単に指示を与える指導を減らし、考えて行動できる場面を増やしていく必要がある。	A	外から見てすべての行動に責任をもって行動しているように思う。よく育成されている。概ねできているが計画が甘かったりすることもあるので今後の改善が必要である。
ア 確かな学力の育成 (教務学習部)	○ わかる授業をめざしての指導方法の工夫改善	B	授業では概ね授業内容を理解している傾向にある。家庭学習には概ね取り組んでいるものの、内容については生徒・保護者とも充実しているとはいえない傾向がある。読書冊数0冊の生徒が数名いる。	生徒が主体的に参加する授業を引き続き行う。家庭学習の充実に向けた具体的な取組を考えていく必要がある。そのためには「学力向上プラン」の有効活用を図っていく。生徒会活動「リーディングタイム」を活用し、読書の機会を増やす。また学校図書館の利用促進を図っていく。	B	参観時においては、概ね安心ですが家庭での状況については不明である。不登校ぎみの生徒について現状を知りたい。授業参観での感想しかできないが、いつも集中して取り組んでいるように見受けられる。小規模校の良さが出ていると思う。読書をしている生徒が少ないのは気になる。生徒が好奇心を持ってると良いと思う。とても分かりやすい授業である。先生方はタブレットなどを使って工夫して授業をされていると思う。生徒の家庭での学習には課題があると思う。読書の時間がスマホを見る時間になっている。読書を必須とし感想の提出をするなどの方法はどうか。
	○ 望ましい学習態度・学習習慣の確立					
	○ 家庭教育の充実					
	○ 読書習慣の推進					
イ 心の教育の充実 (生指保体部)	○ 道徳の時間の充実	A	道徳の時間は充実できている。規範意識についても確立されている。リーダー育成も生徒会活動などを通して育成されている。思いやりやコミュニケーション能力も良好である。	考え議論する授業の充実を今後も図っていく。規範意識を高め、生徒が主体的に判断できる機会を与える必要がある。引き続き一人一役などを通して全員に責任をもたせ、達成感や自己存在感につながる活動を取り入れていく。	A	心の教育については、何の問題がないように思う。中学生は、挨拶が大変良いです。道徳の授業内容はとてもよかったです。道徳の授業が工夫されているため思いやりや仲間との絆を大切にしている生徒が多いと思う。人数が少ない分、まともにはあると思う。
	○ 規範意識の確立、リーダーの育成					
	○ 体験学習の充実					
	○ 思いやりの心を持った生徒の育成					
	○ コミュニケーション能力の向上					
	○ 積極的な生徒理解の推進					
ウ 保健・安全指導の充実 (生指保体部)	○ 心身の健康の充実	A	計画的な生活(学習や就寝、自由時間の切り替えなど)についての達成度は6割程度である。毎朝の朝食の摂取や食事の大切さの理解については良好である。全校生徒16名のうち部活動等に所属しているのは14名(ソフトテニス部10名、校外野球クラブ2名、校外サッカークラブ2名)である。また、屋休みに体を動かすことも多く、運動活動には積極的である。	計画的な生活の確立について家庭との連携を継続する必要がある。引き続き食育について指導し、食事の大切さについて主体的に考えさせる。学習と部活動等との両立について、生徒一人一人に意識させる。個々の実態に即し家庭との連携も行いながら指導していく必要がある。	A	他の地区には朝食抜きの生徒がいるようだが、西岳中学校にはいないと把握している。朝食は大切である。コロナ禍でなかなか行事も行えず、歯がゆい思いをしている所ですが、体力作り等は個人でもできると思うのでアイデアを出し工夫して頑張りたい。現在は素晴らしい生徒たちですが、高等学校に入ってからからの挫折をよく聞くので心配である。ほとんどの生徒が部活やクラブチームで運動をしており、体力づくりは充実していると思う。校外クラブでの活動で、友達はたくさんできる反面、良くない影響もある。誘惑に負けない強い気持ちを持って欲しい。
	○ 体力づくりの充実					
	○ 安全指導・防災教育の徹底					
エ 家庭・地域との連携 (教務学習部)	○ 地域人材・素材の積極的な活用	B	職業講話や陶芸教室、少林寺拳法(体育授業)の補助講師などで地域人材の活用を行った。西岳地区社会福祉協議会が主催した映画に3名の生徒が参加した。コロナ禍の影響で、地域の行事に参加する機会が少なかった。また部活動等の大会と日程が重なり、参加できない生徒もいた。生徒手作りの年賀状を地域の高齢者の方々に送付し交流することができた。学校便りや学級通信、ホームページによる情報発信により、家庭・地域との連携を図ってきた。	コロナ禍に対応しながら地域と連携できるふるさと教育の推進を模索していく必要がある。キャリア教育の一歩として地域人材・素材の有効活用を今後も推進していく。他校の情報発信の方法を参考に、今後も効果的な情報発信を模索する必要がある。	B	スポーツフェスタ等の地域住民の参加できる機会が増えるといいと思う。地域の行事がほとんどできず残念ですが、コロナに付き合いながら知恵を出してできる限り協力していきたい。陶芸や少林寺拳法は、とても良く、心身ともに良いと思う。コロナ禍で地域の行事が少ない中でも、積極的に地域の皆様と交流しようとしている姿勢は良いと思う。コロナ禍で地域の人々との交流がなくなり残念である。令和5年度は復活できそうなので、以前を知る先生方が少ないが頑張りたい。
	○ 地域等行事への積極的な参加					
	○ 学校からの積極的な情報発信					
	○ 地域と連携しながらのふるさと教育の推進					